



# ヤマネぐっすり 清里の森

## 地元イチオシ

甲府市の山梨県地場産業センター「かいてらす」(☎055・237・1641)の河野章二事務局長に聞きました。

### 信玄武者ほうとう

ほうとう麺に野菜を入れて煮込んだ郷土料理。540円〜683円(わたなべ食品)

### 鳥もつ煮

鳥もつを甘辛い醤油だれで煮込んだレトルト商品。150円〜735円(ヤマフジ)

### 桃農家の桃カレー

桃とビーフのフルーティー&スパイシーなご当地カレー。180円〜630円(ありが桃園)

### くろ玉

黒砂糖を羊羹に仕立てうぐいす箔を包んだ銘菓。4個入り498円(澤田屋)

### あわび入釜めしの素

アワビやキノコ、野菜が入った釜めしの素。220円〜500円(かいや)

### かざま甲州辛口2011新酒

酸味と甘みのバランスが良い白ワイン。720ミリリットル1400円(甲斐ワイナリー)

### 甲州印伝

鹿革に漆で模様をつける伝統技法。小銭入1470円など(印傳屋上原勇七)



落ち葉の上で冬眠から目覚めるヤマネを観察する子どもたち  
=写真はいずれも山梨県北杜市高根町清里の「清泉寮」、遠藤真梨撮影



⑤冬眠中のヤマネ  
⑥目覚めたばかりのヤマネ

## 「橋」でつなぎ すみか守る

記者の姓は「山根」。炬燵で丸まって眠るのが大好きだ。となれば「眠りネズミ」ともいわれ、丸まって半年近く冬眠する小動物「ヤマネ」に共感を覚えないはずはない。いざ、ヤマネが眠る山梨・清里高原へ、だ。

「目が開いた」「頑張れ」

ヤマネはリスやネズミと同じ齧歯類で茶色い毛に尾、背中に黒い1本線がある。実験用の冬眠中のヤマネを20度の室内に置き、目覚める様子を観察する会があった。落ち葉の上で毛糸玉のように丸まっていたが、尾がほぐれ、ピンクの脚を動かし、まぶたがピクピク。上体を起こしても、また丸くなってスヤスヤ。約80分かけて目覚め、体温は5度から21度まで上がった。北杜市の清里高原の「清泉寮」で昨年12月、環境教育に取り組みキープ協会主催の「やまね学校」があり、約30人が参

加。「寝返りやあくびもしていたよ」と小学3年の太田君(9)。目覚めたヤマネはエサを与え、再び、冬眠に戻す。

ヤマネは平均で体長8センチ、体重18グラム。夜行性で森の樹木を動き回り、花の蜜やアケビ、昆虫などを食べる。土の下や枯れ木の中などで体温を0度近くまで下げて冬眠する。本州、四国、九州などに生息、国の天然記念物で、環境省のレッドリストでは「準絶滅危惧種」に指定。

「やまね学校」で毎年、講義をしているのが、研究歴約40年、清里高原の「キープやまねミュージアム」の渡秋作館長(59)。和歌山の小学校教員だったが、清里には、植生豊かな広い森があり、ヤマネが多数生息しているの、移り住み、54歳の森で調査している。

山梨は、道路工事などで分断された森を、ヤマネやリスなどの樹上動物が安全に往来できるように渡した橋「アニマルパスウェイ」の先進地でもある。

渡館長の働きかけで1998年、現・北杜市内の公道に全長15キロの「ヤマネブリッジ」が架けられ、その後、同市の2カ所の公道に約13キロの「アニマルパスウェイ」を設置。うち1機では約2700時間のモニタリング調査でヤマネやヒメネズミ、リスなど約1500回の小動物の利用が確認された。「ヤマネを守ることは森を守り、皆を守ることになる。将来は冬眠のメカニズムを応用し、宇宙開発に貢献できたら」と渡館長。

ヤマネが冬眠する森でシートの上で丸まって寝た。森はヤマネも「山根」も包んでくれた。

文・山根由起子  
イラスト・茶畑和也  
▼次は岩手県の予定です。